

# 第二次地域福祉活動計画

計画期間: 2019年4月1日から2024年3月31日まで (5 年計画)

2020年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfare



# とりでYOU・Iのまち

## 「とりでYOU・Iプラン」の進行管理

### 1 目的

この方針は、「とりでYOU・Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

### 2 進行管理の対象

#### (1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

### 3 進行管理の実施体制

#### (1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

### 4 評価の基準

#### (1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

### 5 進行管理の実施時期

#### (1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

#### (2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

### 6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

## 第二次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 令和2年度実行計画進行管理

### 1. 基本方針

第二次地域福祉活動計画が始まり、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してらせる福祉のまちづくり」という基本理念のもと、市、地域団体、市民の協働により、地域課題を解決するべく市民全体で取り組んで行けるような、住民主体の仕組みづくりを目指します。

とりでYOU・Iプランは、第二次計画2年目となり、引き続き5つの行動目標に対して市内で行われている、市、団体等の事業、行事等を調査、把握し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

### 2. 令和2年度の取り組み

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな事業が中止となり、地域での交流活動が低迷しました。高齢化が進む中でのこうした状況は体力や認知機能の低下につながり、多くの市民に不安な日々を与えています。経済においても飲食業をはじめ多くの業種が影響を受け、業績の悪化へとつながりました。地域で少しでも安心して暮らすことができるよう、国・県・市が一体となった様々な支援や取り組みが行われていますが、社会福祉協議会においても、生活福祉資金の貸付など生活困窮に係る支援を多く取り扱いました。

コロナ禍での様々な課題がある中、今年度の地域福祉活動計画は、計画を推進するにあたり、人と人との接触が難しいことから情報収集については、アンケートによる調査など工夫を凝らして行いました。

地域での見守り・相談対応・関係機関との連携について、地域の様々な活動を熟知している地域支え合いづくり推進協議会の構成メンバーに対して調査を行いました。また子育て支援については、ボランティア団体に対し、子育て世代が地域とふれあう機会や見守りの体制など、アンケート形式により多くの方にご意見をいただき、地域の実態について知ることができました。

また、先述のとおり地域の自治会活動をはじめ、市、社協、ボランティア団体等が行うさまざまなイベントが制限されています。そのような中、リモートワークでのボランティア活動が行われるようになり、市内ボランティア団体においてもその方法による活動が少しずつ実施されています。今後更にその取り組みが広がるよう、社協として、市民協働課との共催によりリモートボランティア講座を開催しています。

地域の活動については、新型コロナウイルスの感染の恐れから、通常の活動に戻るのには難しい状況にありますが、高齢者の認知機能の低下も懸念されることから、できる限りの活動や支援を続けていかななくてはなりません。

また今後はオンラインを活用した新たな仕組みづくりも視野に入れ、より良い地域づくりのための活動を開拓して、地域福祉活動計画にも反映させていきたいと考えます。新しい生活様式は我々市民一人一人が受け入れ、取り入れていかなければならないものでもあります。今後も新しい支援方法や、取手市の地域性に合った活動を調査研究し、住民主体の仕組みづくりに一層取り組んでいきたいと思っております。

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度		
担当者	職名	係長	氏名
			五十嵐 玉枝
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	取り組み	①	福祉に関する情報の共有促進と理解者の拡大
現状と課題	<p>地域包括支援センターなどで取り組んでいる座談会、講演会、出前講座等の地域推進の取り組みにより、各地で市政協力員、民生委員児童委員、ボランティア、福祉施設、高齢者団体、障害者団体等と連携を図っていることがわかってきました。また自治会などでも防災訓練や夏祭りなどのイベントをとおして地域のコミュニティー作りに熱心に取り組んでいるところも多く見られ、市役所や地元の商店、施設などの協力や支援もある地域があることもわかりました。</p> <p>しかしながら、防災訓練や地域の行事などが行われていない地域もあるようです。自治会への未加入も深刻ですが、地域によっては冠婚葬祭などを助け合ってきた組合と呼ばれる組織からも抜けてしまう家が多い地域も増えてきているようです。地域のつながりを深めてもらうためにも、引き続き情報発信の工夫や共有の必要性を感じます。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 市民福祉ニーズについて調査します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：ワークショップ・座談会等の把握（継続） （地域課題の集約、地域の特徴を把握：未実施の地区なども把握したい）</li> <li>・実施期間：令和3年3月まで</li> <li>・達成目標：収集した情報のまとめ</li> </ul> <p>(2) 情報発信について必要な情報を発信することに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：地域の福祉マップの調査（一休みできるスペース、サロン・お休み処等の開設、お店の情報、危険箇所等作成している地域） 他市町村社協等の調査（先進地の取り組み等について）</li> <li>・実施期間：令和3年3月まで</li> <li>・達成目標：収集した情報のまとめ</li> </ul>		
令和2年度の実施状況	<p>(1) ワorkshop・座談会等 包括支援センターの取り組み（今年はコロナ禍のため大半の事業が中止になっています。） 4カ所とも第2層協議体、オレンジカフェ、座談会等は軒並み中止または回数減に追い込まれているが、再開に向けて努力している。 はあとびあ 座談会 井野地区、桑原地区、合同で3地区（小文間、青柳・吉田、取手地区）で無理のない状況で再開。 小堀地区で認知症予防の出前講座、他 認知症サポーター養成講座を数回開催。 民生委員定例会で地域包括支援センターの説明も行っている。</p> <p>緑寿荘 座談会 中原地区をモデルケースとして開催。今後も継続予定。 寺田・小山地区役員さん対象に「認知症サポーター養成講座」を行った時に、地域づくりの話をし啓発活動を行った。他にライブラリ取手職員向けにも開催。</p> <p>さらの杜 座談会、茶話会も今のところできないが、地区委員が区長、管理組合長、市政協力員等を訪問、協議体の趣旨説明を行った。昨年までの座談会等開催で、地域で温度差はあるものの、徐々に協議体の活動について理解者が増えてきた。</p> <p>なごみの郷 座談会 中止（双葉の茶話会が一時再開したが再び自粛） 出前講座 「栄養について」の講座2回（スカイハイツ）、認知症サポーター養成講座（宮和田小5年生）</p> <p>(2) 福祉マップ等 はあとびあ…作成しようという声はあるが、なかなか手がつけられない状況。 緑寿荘…作成中（施設全般、集会所、バス停・駅、防災倉庫等も記載）、地域の案内とリンクさせたい。 さらの杜…社会資源情報を冊子化しているものがあるが、今後協議体と連携して、地域資源マップ等を検討しては…との声もあがっている。 なごみの郷…藤代地区全地区福祉マップ(福祉施設などを盛り込んだもの)を作成している。</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	3	現状は、地域包括支援センター、総合ボランティア支援センターに情報をいただいているものがほとんどです。包括支援センターが中心となって進めている協議体で行った座談会がきっかけで動き出していた茶話会等の集いも、今年はコロナ禍のため中止になってしまったところが多かったようです。福祉マップについても、作成している地区、団体は多いかと思いますが、包括支援センター以外の調査はできませんでした。	
	課題				
	住民主体の茶話会、サロンなどが安心して継続して行えるように一層の支援、協力体制の構築。また、福祉マップを身近なものとして地域住民の方が利用できるようにするには、どのように広めていったらよいのか、各機関との情報交換、連携が必要と思われま。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	茶話会、サロンなどに参加して、取り組みや内容など、良い点を把握して、伝えていきたいと考えます。また福祉マップを作成したところに訪問して、経緯やどんな人、団体を巻き込んで、どういう目的で作成したかなどを調査したいと思います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	引き続き各機関と連携して情報収集を進めたいと考えます。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		3年4月～3年11月	①協議体、座談会、茶話会、サロン等の訪問、調査 ②福祉マップの作成状況調査		
	2年12月～4年3月	①、②を整理し、まとめる。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集より「より早く伝達するか」の方が重要だと思います。</li> <li>・調査により得られた情報は、いかに活用するかが大事だと思います。コロナ禍により進めにくい状況もあったと思いますが、情報の収集と発信を目指した事業ですので、理解者の拡大につながる情報の発信、事業推進に期待します。</li> </ul>					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度		
担当者	職名	係長	氏名
			濱田 正之
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	取り組み	②	福祉教育アプローチの構築
現状と課題	<p>学校や自治会等での福祉体験、その内容をまとめた「やさしい心の種をまく」を小中学校等に配布、先生方にも理解、活用していただき、福祉体験学習に取り組んでいる学校は昨年8校（17回）になりました。また地域での福祉体験は2地区、高齢者施設3カ所、障害者施設1カ所で行いました。学校と地域で行事や防災訓練など連携して行っているところもありました。</p> <p>しかし福祉体験学習に訪れていない学校や、地域の子ども会が実際にどのような取り組みをしているのか把握できていないところが多くあります。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 福祉についての理解や習得に向けての福祉教育研修会を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：ボランティア活動について市内の学校、地域での取り組みの活動内容調査（継続）（学校、子ども会等） 受け入れ先、協力いただける機関についての調査（継続）</li> <li>・実施期間：令和3年3月まで</li> <li>・達成目標：児童・生徒や地域の皆さんにボランティアと触れ合う機会を設け、市や社協、包括支援センター等の仕事について知ってもらうこと。</li> </ul>		
令和2年度の実施状況	<p>「やさしい心の種をまく」等での告知から市内小学校での放課後子どもクラブでのボランティアの要望がありました。その内容は手話や演奏のボランティアなどの紹介依頼でした。また、NPO法人茨城県防災士会については本年、市内高校での活動実績があり支援プログラムに追加されています。</p> <p>本来このような需要はまだあると思われるものの、現状ではコロナ禍の影響を受けて依頼も非常に少ない状況です。また、本年度についてはやはりコロナの影響で福祉教育研修会（福祉についての理解を深める場としてボランティア担当者等を対象に開催を検討中）の開催に向けての調査実施も見合わせているところです。</p>		

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	9月～3月	3	
	課題			
	将来的には社会福祉協議会、ボランティアセンター、地域包括支援センターがリンクして、ボランティア希望者、受け入れ希望者がそれぞれの活動に際しての目的に合わせた受け入れ先、協力団体が容易に選択できるようになればと考えます。まずは今後より詳細な情報収集が必要と思われます。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>コロナ終息後、令和3年4月以降（日程は変更の場合あり）にはあらためて教育委員会指導課などを通じて小中高校の現況確認から実施します。どんなものが必要となっているか以下の内容にてボランティア担当者に対してアンケートもしくは聞き取り調査を実施する事で準備を進めています。</p> <p>①団体名を教えてください</p> <p>②ボランティア活動に参加したい希望はありますか？</p> <p>③ボランティアを受け入れる需要はございますか？</p> <p>④それはどのような知識、技術、経験を有するボランティアですか？</p> <p>⑤その他ボランティア活動に際しての質問、ご希望はありますか？（時間、規模、日程、費用など）</p> <p>その他調査を通じて地域ごとに抱えている問題点を把握するように努めたいと思います。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	引き続き情報交換を進めます。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		3年4月～3年9月	ボランティア活動に対するさらなる情報収集	
3年10月～4年3月		福祉教育研究会実施に伴う情報交換		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉体験学習の内容記載があれば分かりやすいです。</li> <li>「課題」の項目に記載されている、社協、ボランティアセンター、地域包括支援センターがリンクして目的に合った受け入れ先にスムーズにマッチングできる状況は理想的な体制だと思います。目標達成に向けた取り組み、期待します。</li> </ul>				

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	取り組み	①	新たなボランティア活動の推進、地域への参画	
現状と課題	<p>誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、生活支援の他、健康に住み慣れた地域で暮らしていくために介護予防として体操や脳トレが地域で行われています。また、サロンやたまり場、茶話会といった地域の拠点も重要になってきます。それらの成り立ちやボランティア（担い手）の確保など、ノウハウをマニュアル化できれば参加しやすいものとなります。先進地の活動を参考にしてより良い仕組みづくりについて調査研究が必要です。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに どのレベルまで達成 させたのかなど)	<p>(1) 地域資源を活用します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：各地域で行われているボランティア団体の活動等の人材について調査</li> <li>・実施期間：令和3年3月31日まで</li> <li>・達成目標：地域特性に応じた取り組み活動状況を調査し、把握</li> </ul> </p> <p>(2) 地域のつながりや地域力の向上を目指します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：サロン活動やたまり場のような誰もが気軽に立ち寄れるような地域の居場所づくりについて調査</li> <li>・実施期間：令和3年3月31日まで</li> <li>・達成目標：市内外の仕組みやボランティアについて調査し、情報提供</li> </ul> </p>			
令和2年度 の実施状況	<p>(1) 公民館活動の女性学級について調査。コロナ禍でも活動し、地域の中でのつながりを維持しています。今後の地域活動のベースとして参加者に状況の調査を行った。地域の実情やどのような活動をしているかなども聞くことができました。また、シルバーリハビリ体操、チューブ体操など体操については、利用者も健康管理として多くの地域で行われています。各団体の活動一覧の情報提供を受け今後の地域特性と活動の発展について調査しました。</p> <p>(2) 白山町内会の茶話会。おやすみ処タッピーノ、戸頭おやすみ処を視察、コロナ禍での活動状況、運営についての状況、変化についてや今後の展開についてを聞き取りしました。</p>			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	7月～3月	3	(1)(2)活動自粛をする団体が多い中、コロナ禍でも活動する団体活動状況や地域のつながり、助けあい活動の状況を知ることができました。全体的に参加者は減少していて、サロン活動では感染拡大防止で飲み物を出さなくするなど対策を講じている場所はさらに参加者が少なくなっている状況にあります。今後は密にならないような感染防止策は必要ですが、対策により利用者がなくなってしまわないよう、安全に運営できる体制が必要となります。団体の性質上一つの方法には限定できませんが、集客にも成功している事例などについても紹介していきます。
	課題			
	(1)(2)コロナ禍での活動の難しさ、団体内でも賛否が分かれて活動自粛の傾向が強くなっています。この状況下で地域のつながりを保つことが難しく、新たな方法で地域の活動を展開できるか手法についての調査が必要になります。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	(1)(2)感染の拡大で変化するコロナ禍で運営している団体の活動をタイプ別に分け、団体の状況を調査し、取り組み方、感染防止策などもより良いものを紹介していき、利用者やボランティアに安全に行う方法の情報を共有し、紹介していきます。現状の活動方法とは異なる活動について、先進地の活動状況についても研究していきます。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	(1)(2)地域別のボランティア活動分布、どんな活動が受け入れやすい地域か、地域性を考えるほか、どのようなボランティアが不足しているかなど各ボランティア団体に情報を提供していただき調査研究します。また、団体の状況についてを調べた活動状況で参考になる情報の発信に努めます。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		3年7月～4年3月	(1)様々な種類の団体の活動の変化、活動についての注意点、集客についてもタイプ別に必要なものをまとめます。 (2)ボランティアの構成メンバー、ボランティアを集める方法、運営についてのノウハウを研究します。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究の集大成が出来上がり、研究結果の発表を期待します。</li> <li>・調査により、コロナ禍でも活動されている団体の取り組みについて、力を入れている点や工夫されている点の情報が社協に集まったと思われます。情報の地域への還元や、それらの情報をもとにした新たなボランティア活動の推進、地域への参画に期待します。</li> </ul>				

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度			
担当者	職名	係長	氏名	橋本睦
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	取り組み	②	次世代（若者）担い手の育成、拡大	
現状と課題	<p>社会資源として学校が地域に協力することは少子高齢化の現代において必要になってきています。さらに学校は避難所となることから日頃から地域とのつながりを持ち、有事の際には協力体制が必要です。子ども会の減少など学校に限らず若い世代の地域活動の参加が減ってきています。地域と学校学生をつなぐ仕組みづくりにより地域活性化につながります。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 地域と学校をつなげる仕組みづくりを考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容： 地域防災やイベントなど地域での活動への学生の参画を推進</li> <li>・実施期間： 令和3年3月31日まで</li> <li>・達成目標： 防災訓練や地域のイベント等、学校の地域活動への参画を目指す</li> </ul> <p>(2) 若い世代の地域参加を促します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容： 学生の地域参加について調査研究</li> <li>・実施期間： 令和3年3月31日まで</li> <li>・達成目標： 地域での行事に参加しやすい仕組みを作る</li> </ul>			
令和2年度 の実施状況	<p>(1) ・取手一校での「産業と人間」においてボランティア不足や地域での活動の低迷について講演。若いボランティアの必要性。地域参加について継続的に行えるものについて研究してもらえよう提案しました。</p> <p>・藤代紫水高校1年生220名を対象として防災訓練が行われました。防災の基礎知識の講演や避難所を想定したパーテーション設置、避難者受け入れなどの実演が行われました。</p> <p>(2) 取手小学校5年生にふれあいサロンなど高齢者が集まる機会にメッセージカードを作ってもらい配布していますが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、ふれあいサロンの行事が中止となり、配布できない状況にありましたが、今年度は急遽特別養護老人ホームのデイサービス等の利用者にお渡しすることができました。小学生の様々な工夫を凝らしたメッセージカードは大変好評で次年度もお願いしたいと、来年度以降も新たにメッセージカードの配布の希望を受けました。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 3月	4	(1)・取手一校での講演を受けて学生が、こども食堂の開設、地域のボランティア活動の調査、地域との交流についての調査と3つのグループが興味を示しました。その他各講師の関係するものに関してそれぞれグループで研究に取り組みました。研究成果として2月に発表されたものをとりまとめます。次年度学生が計画を実施していく予定なので地域とのつながりを持てるように協力します。 ・NPO茨城県防災士会と市の安全安心対策課が参加した藤代紫水高校の防災訓練では防災の基礎知識や避難所についての対応など災害に関する対応を学ぶことができ、今後地域の活動に高校生の参画する可能性ができました。 (2)新たにメッセージカードの配布先ができたことで今後の可能性が広がりました。取手小学校以外でも近隣のふれあいサロンや高齢者施設へのメッセージカードの配布を提案していきます。	
	課題				
	(1)(2)学校の活動と地域の活動をつなげる仕組みづくりや継続性を考えると難しい状況です。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1)防災については学校と地域の連携を目指し、地域の自主防災会と避難所になる学校で防災についての基礎知識や避難訓練等の開催できるような関係作りを推進し、学校行事としての取り組みまで昇華されるような仕組みづくりについて研究します。 (2)学校の取り組みについてや実際の活動の効果など紹介していき地域の活動として定着できるよう研究します。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	(1)(2)学校と地域の自治会町内会との連携実際の活動ができるよう、地域での活動、学校での活動について各々に情報提供し、共催の行事などができるよう提案します。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		3年7月～ 4年3月	(1)取手一高の生徒の2年目は計画を実行するため、社協として協力できるものは協力し、地域の活動につなげます。また、取手一校の他グループでの取組みや結果についてを見ていき学校と地域について今後どのような可能性があるかの方向性について研究していきます。 (2)学校での取組みを他の学校でも新たな活動としていただけるよう提案し、取手市内での活動の認知度を上げていきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
・学校と連携した取組みが、単発の活動ではなく、翌年度への連携した取組みになっており、とても良いと思います。つながりが生まれている活動ですので、活動のPRにも力を入れてもらえればと思います。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度		
担当者	職名	係長	氏名 佐藤 晶彦
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実
	取り組み	①	安全に暮らせるまちづくりの推進（バリアフリー）
現状と課題	<p>地域の課題として、普段生活をしている際に、日常生活上危険や不便を感じる場所があり、子供、高齢者、身体の不自由な人が移動するのに不安を感じることや地域でのつながりが希薄になっている状況において、近年、想定外の災害がおきるため、地域でお互い助け合うことが困難になるのではないかと不安に感じている状況があります。</p> <p>しかしながら、地域によっては、児童登下校の見守りのスクールパトロールや防犯パトロール等に取り組んでいるところもあり、地域住民の共助によって様々な取り組みがなされているところもあります。</p> <p>昨年度の調査により、地域特性がある中、取り組みの各項目についても地域格差があることが明らかとなりました。地域では様々な取り組みについて組織化が進まないことも課題となっています。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域における危険箇所等についての情報・マップ作成等状況の調査（関係団体、市民レベルにおいて）</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：先進的に取り組んでいる地域（自治会等）への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul> <p>(2) 地域見守り隊の活動に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域における見守り、防犯等の取り組み状況についての調査（行政、関係団体、市民レベルにおいて）</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：先進的に取り組んでいる地域（自治会等）への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：緊急支援等ができるボランティア育成への取り組みの調査（行政、市社協、関係団体レベルにおいて）</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：先進的に取り組んでいる地域（自治会等）への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul>		
令和2年度の実施状況	<p>※ 今年度については、下記の各取り組みについて行政、関係団体等への聞き取りを行う予定でしたが、コロナウィルス感染症予防の観点から訪問や面談等を控えた為、情報収集の調査は実施できませんでした。</p> <p>コロナ禍の状況に合わせ、行動目標3の取り組みについて、一部の協議体に対して簡単なアンケートを配布し、回答を得ることにより、今後の聞き取りの参考資料とできるようにした。</p> <p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域における危険箇所等についての情報・マップ作成等状況の調査（関係団体、市民レベルにおいて）</li> </ul> <p>(2) 地域見守り隊の活動に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域における見守り、防犯等の取り組み状況についての調査（行政、関係団体、市民レベルにおいて）</li> </ul> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：緊急支援等ができるボランティア育成への取り組みの調査（行政、市社協、関係団体レベルにおいて）</li> </ul>		

	<b>成果状況評価</b>		<b>成果状況に対する説明</b>
	8月～3月	2	<p>いくつかの協議体からのアンケート結果によると子供たちの通学路についての危険度については地域において確認され学校、市役所等と情報共有されているが、その他の場所については、地域によって危険個所が把握されている地区が少数ある状況。地域での見守りについては、子供たちについては登下校時に実施されるものの、防犯や助け合いという点については少ない状況という回答であった。緊急支援ボランティアについては、地域によって災害時の要支援者への支援についてチームを作り対応している地域があるものの、現在そのようなボランティア育成は行っていないとの回答が多かった。</p> <p>来年度については、コロナウィルス感染症の感染状況に配慮しながら、可能な方法を模索し調査を継続する。</p> <p>以下の課題から今後の方向性については、令和2年度の内容を継続する為、その課題等々についても継続した内容とする。</p>
進行管理	<b>課題</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性がある中、3つの項目のそれぞれにおいての課題として、地域ごとに差があるということが現状を把握していくと明らかになってきた。</li> <li>・調査が十分ではない為、地域の取り組みが把握できていないことも考えられる。地域での小さな取り組みについても重要な社会資源と考え、情報収集及び集約が必要と思われる。</li> </ul>		
	<b>課題解決のための改善内容・取り組み方針</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの課題について先進的に実施している地域、担当課等にどのように組織化、運営等を行っているのかを具体的に調査。</li> <li>・その取り組みをモデルとして発表の機会等を作ることにより、他地区においての取り組みの参考となるものの提供。</li> </ul>		
	<b>協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)</b>		
	<p>(1) については、取手市安全安心対策課等と取手社協ボランティア支援センターの協働・連携 行動目標4-①との協働・連携</p> <p>(2) については、取手市高齢福祉課、地域包括支援センターと取手社協地域支援係との協働・連携 行動目標4-①、4-②との協働・連携</p> <p>(3) については、取手市社会福祉課等と取手社協ボランティア支援センターの協働・連携 行動目標2-①、②との協働・連携</p>		
今後の方向性	<b>期間</b>	<b>今後の方向性の説明</b>	
	令和3年4月～令和4年3月	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</li> </ul>	
	令和3年4月～令和4年3月	<p>(2) 地域見守り隊の活動の支援に努めます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</li> </ul>	
	令和3年4月～令和4年3月	<p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</li> </ul>	
<b>取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響もあり、調査が進めにくい状況があったと思います。このような状況だからこそ、地域では支え合いの重要性が再認識されていますので、次年度の事業推進に期待します。</li> </ul>			

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度		
担当者	職名	係長	氏名 佐藤 晶彦
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	取り組み	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実
現状と課題	<p>地域の課題として、低所得、独居化、家族関係の希薄化が進む中、現状の福祉サービスだけでは不十分な人への支援をどのようにしたらよいかとの不安等があり、自分の困っていることや福祉全般の相談について気軽に相談でき、援助してもらえるサービスメニューについて分かりやすく教えてもらえるような総合相談体制が欲しいとの希望があります。</p> <p>一部の地域では、困った時は民生委員、包括支援センターへ相談している人が増え、ご近所、近くの友人同士の結びつきも機能しているようではありますが、現在もどこに相談すればよいか分からず困っている方々もいます。</p> <p>昨年度の調査により、ニーズに対する仕組みや体制は整いつつありますが、どこにいけば相談できるのか、相談しても良いのか等の意見が現在もあり、地域によって取り組みへの格差や、どのように取り組んでいけばよいか分からないという状況があります。</p>		
事業・業務の具体的内容等(何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の困りごと等への相談の仕組み、連携等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域での助け合いへの取り組み、啓蒙活動等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域において訪問活動等の取り組みの状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul>		
令和2年度の実施状況	<p>※ 今年度については、下記の各取り組みについて各地域包括支援センター、関係団体等への聞き取りを行う予定でしたが、コロナウィルス感染症予防の観点から訪問や面談等を控えた為、情報収集の調査は実施できませんでした。</p> <p>コロナ禍の状況に合わせ、行動目標3の取り組みについて、一部の協議体に対して簡単なアンケートを配布し、回答を得ることにより、今後の聞き取りの参考資料とできるようにした。</p> <p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の困りごと等への相談の仕組み、連携等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</li> </ul> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域での助け合いへの取り組み、啓蒙活動等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</li> </ul> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の地域において訪問活動等の取り組みの状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</li> </ul>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		8月～ 3月	2	<p>いくつかの協議体からのアンケート結果によると地域における相談は民生委員や自治会役員の方が対応することが多く、そこから市役所や地域包括等につながられていることが再確認できた。訪問活動については、今年度はコロナ対策として電話での対応等がなされた所もあるが何らかの対策を講じながら訪問活動を実施していることが分かった。</p> <p>来年度については、コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、可能な方法を模索し調査を継続する。</p> <p>以下の課題から今後の方向性については、令和2年度の内容を継続する為、その課題等々についても継続した内容とする。</p>	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに対応する仕組みや体制は整いつつあるが、どこにいけば相談できるのか、相談してもよいのか等の意見が現在もある。</li> <li>・地域における取り組み状況にも差がある。どのように取り組んでいけばよいのか分からない。</li> <li>・座談会、協議体等での情報、課題等についての具体的な行動へのステップに進めていない。</li> </ul>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における取り組みと行政、取手社協との連携・協働の強化、情報発信の強化</li> <li>・地域において、気軽に話ができる場所、機会をつくり、その場所においても相談窓口の情報がかかるようにしていく。</li> <li>・地域の座談会、協議体での話し合いの場において、地域の見守りや助け合いの活動のモデル等を発信する。</li> </ul>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>(1) については、取手市福祉部と取手社協相談支援係の協働・連携 行動目標1-①との4-①との協働・連携</p> <p>(2) については、取手市市民協働課、福祉部及び各地域包括支援センターと 取手社協地域支援係の協働・連携 行動目標1-①、4-①との協働・連携</p> <p>(3) については、取手市福祉部及び地域包括支援センターと取手社協地域支援係の協働・連携 行動目標2-①、4-①との協働・連携</p>				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		令和3 年4月 ～ 令和4 年3月	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取り、集約</li> </ul>		
令和3 年4月 ～ 令和4 年3月		<p>(2) みんなで守る意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター、自治会・町内会等への聞き取り、集約</li> </ul>			
令和3 年4月 ～ 令和4 年3月		<p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター、自治会・町内会等への聞き取り、集約</li> </ul>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みは難しいと思いますが、活動した事実の評価は3です。</li> <li>・コロナウイルスの感染拡大により、今まで社協とつながりが薄かった人たちともつながりが生まれた一年だと思えます。社協が必要とされる状況ですので、次年度の事業推進に期待します。</li> </ul>					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度		
担当者	職名	係長	氏名 寺田 一恵
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	取り組み	③	ふれあいの機会を増やします
現状と課題	<p>地域の状況として、一部の福祉施設については、地域住民、学生などのボランティアの皆さんが施設に訪れ、沢山のふれあいの機会を作ることができています。今後は、若い世代や身体の不自由な方も気軽に参加できるような様々なイベント等の開催が望まれています。</p> <p>昨年度の調査により、各種イベントは開催されていますが、子供、若者、子育て世代等の参加や身体の不自由な方の参加は少ない状況にあるようです。</p> <p>イベントについても、数多くあり、季節によっては開催時期が重なり、イベント自体の効果的な実施ができていないと思われます。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の市内で実施されているイベント等の状況の調査 (行政、市社協、関係団体、市民レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：取手市市民協働課、市社協、関係団体への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul> <p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の市内福祉施設での地域住民・学生等との交流機会の状況の調査 (行政、市社協、関係団体レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：高齢福祉課、地域包括支援センター、関係団体への聞き取りの実施及び情報集約</li> </ul>		
令和2年度の実施状況	<p>※ 今年度については、下記の各取り組みについて行政、関係団体等への聞き取りを行う予定でしたが、コロナウイルス感染症予防の観点から訪問や面談等を控えた為、情報収集の調査は実施できませんでした。</p> <p>コロナ禍の状況に合わせ、行動目標3の取り組みについて、一部の協議体に対して簡単なアンケートを配布し、回答を得ることにより、今後の聞き取りの参考資料とできるようにした。</p> <p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の市内で実施されているイベント等の状況の調査 (行政、市社協、関係団体、市民レベルにおいて)</li> </ul> <p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：現状の市内福祉施設での地域住民・学生等との交流機会の状況の調査 (行政、市社協、関係団体レベルにおいて)</li> </ul>		

	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	8月～3月 2	<p>いくつかの協議体からのアンケート結果によると今年度については、コロナの影響によりイベントや交流の機会が減少または全く行うことができていない状況であり、今後はその開催内容や方法にも工夫や変化が必要という意見があった。通常であれば、地域差はあるものの、福祉施設や学校等と交流したり、お祭りを開催したり、防災について連携したりしているという回答が多くあった。</p> <p>来年度については、コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、可能な方法を模索し調査を継続する。</p> <p>以下の課題から今後の方向性については、令和2年度の内容を継続する為、その課題等々についても継続した内容とする。</p>
進行管理	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベントは開催されているが、子供や若い世代、子育て世代等の参加や身体の不自由な方の参加は少ない状況である。</li> <li>・イベントについても数多くあり、開催時期が重なってしまうことがある。</li> <li>・ボランティアや交流の機会については、詳細情報の集約がされていない。</li> </ul>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの効果的な実施にあたり、現在のイベント（主に取手市、取手社協）についての詳細の把握</li> <li>・イベントについての広報活動・啓蒙啓発活動の実施</li> <li>・世代や障害の有無にかかわらず参加できるイベントの企画・提案</li> </ul>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>(1) については、取手市市民協働課、福祉部各課と取手社協の協働・連携 行動目標2-②との協働・連携</p> <p>(2) については、取手市市民協働課、取手社協の協働・連携 行動目標2-②、4-②との協働・連携</p>		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
令和3年4月～令和4年3月		<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取手市市民協働課、ボランティア団体への聞き取りの継続</li> </ul>	
	令和3年4月～令和4年3月	<p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢福祉課、地域包括支援センター、ボランティア団体への聞き取りの継続</li> </ul>	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で活動中止のイベントが多い中の「アンケート調査活動」は、立派な成果です。評価は3です。</li> <li>・蜜を避けることが求められた一年でしたが、だからこそつながりの重要性を再認識できた一年だと思えます。プラスに捉えれば、オンラインを活用できる状況が整備された一年ともいえるため、様々な形での、コロナ禍でも行えるふれあいの機会作りに期待します。</li> </ul>			

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度			
担当者	職名	主事	氏名	亀井愛夏
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう—連携強化と拠点づくり	
	取り組み	①	地域拠点づくりの促進	
現状と課題	<p>取手市内の自治会活動やボランティア団体活動などは、地域のニーズの違いや担い手不足などの要因により地域ごとに違ったかたちで行われています。行事やボランティア活動には必ずそこに携わる人が必要になりますが、イベント開催におけるノウハウや自治会においては活動に必要な物資から補助金など実際に行ったところから情報を得ることで、可能になることも考えられます。取手市内の自治会町内会で行われているイベントや地域でのボランティア活動の内容を一覧にすることで実際に行っている活動を参考にし、注意点を共有、自治会や町内会同士の横のつながりを持てるよう、より良い地域づくりにもつながります。また、助成金を活用してもらうことで社協との連携によりできる事業展開なども期待できます。</p>			
事業・業務の具体的内容等に・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 社協運営の拠点整備に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：社協の業務内容を市民向けにまとめた内容を作成。市民協働課との連携により、自治会町内会の情報などから、助けあいのまちづくり推進事業助成金の配布や社協と共同で事業展開できるような自治会町内会を調査</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：自治会や町内会の活動状況について調査をし行事等を把握</li> </ul> <p>(2) 地域推進体制を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：地域ごとの活動状況、広域で活動する団体の地域での分布等調査し把握</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：地域の特徴を団体を通して把握し、活動の一定化(地域による偏りを無くす)に向けて調査研究</li> </ul>			
令和2年度の実施状況	<p>(1) 取手市内の自治会・町内会活動一覧を作成するために地参地笑CDに依頼文を掲載して参加を呼び掛けました。今年度については、コロナウイルスの影響でイベントの中止が多いため、昨年度行った地域の活動をまとめ、一覧表にしました。</p> <p>(2) チューブ体操、シルバーリハビリ体操、女性学級など地域での活動分布一覧の資料を提供してもらいました。</p>			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～3月	3	(1)地域の活動について、今年度はイベントの中止が多く実際の状況とは違いますが、予定しているものを取りまとめて今後活動が再開できるようになった時に活用できるようにします。 (2)チューブ体操、シルバーリハビリ体操、女性学級など地域での活動分布が分かり、どのような活動が地域で発展しやすいかボランティアの活動状態を把握できました。	
	課題				
	自治会町内会、ボランティア団体各種様々な活動があり、それぞれに対応が異なるためどのような方法が望ましいかを考える必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1)(2)団体によっては、コロナウイルス対策のため新たな活動方法を取っているところもあり、新たな活動と通常の活動についてうまく取り入れている先進地について研究します。 また、利用者側の立場に立ってどのような方法が望まれているか調査します。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	地域で活動するボランティア団体、市民協働課、健康づくり推進課から情報提供や共催事業を行っていきます。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		3年7月～6年3月	(1)(2)地域の活動をまとめた資料を基に活動状況や地域の方々の参画しやすくするよう情報の共有発信についてを研究します。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
・地域拠点づくりを目指す本事業は、コロナ禍では進めにくい一年であったと思います。調査により得られた情報をもとに、次年度の事業推進に期待します。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう—連携強化と拠点づくり	
	取り組み	②	関係機関との連携体制作り	
現状と課題	<p>新型コロナウイルスの感染拡大予防により、地域のお祭りなど様々なイベント、公民館活動が、制限されています。そのような中でも、人と人とのつながりを維持するための新しい仕組みが必要となってきます。社協として地域づくりを支援することについては、積極的に情報を提供し、より良い活動についてを考えていく時期でもあります。また、社協の活動についても知ってもらうとともに地域の一助となるような事業展開が必要になっています。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>(1) 新たなコミュニティづくりと既存の福祉活動との共存・連携を図ります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：活動制限の中でもできる新たな福祉活動を模索し実施に向け、調査研究</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：新たな福祉活動について調査研究し、実施</li> </ul> </p> <p>(2) 社協の役割と専門性の周知をします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：社協の活動を知ってもら効果的な手法についての調査研究</li> <li>・実施期間：令和3年3月までに</li> <li>・達成目標：自治会等の地域新聞での社協情報を発信できるよう連携</li> </ul> </p>			
令和2年度 の実施状況	<p>(1) 市民協働課と共催でリモートボランティア講座を開催していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、関係者のみで東京ボランティア・市民活動センターによるオンラインで講演をしてもらい、録画しました。参加予定をしていた方には後日DVDを貸出しを予定しています。</p> <p>(2) 地域情報誌での社協のイベント募集等の情報提供から社協の事業にも関心を持ってもらうよう自治会等との連携を持てるよう自治会長への調査を行いました。  また、他市町村の状況などについても調査を行いました。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 3月	3	(1) リモートボランティア講演については社協登録団体全団体に開催通知を出して興味のある団体について広く参加していただけるよう告知をしたため、今後の新たな活動展開のきっかけになると思います。 (2) 地域の情報誌への社協イベント情報等の掲載に係る話し合いの中で、自治会町内会への社協の活動について紹介し、理解を得ることができました。	
	<b>課題</b>				
	(1) (2) コロナ禍で今後地域でのイベント開催自粛の傾向があり、通常の活動はできていないため、実際に地域での行事は計画はしても実施できない状況にあります。				
	<b>課題解決のための改善内容・取り組み方針</b>				
	(1) (2) コロナウイルス対策をした新たな活動が利用者にも受け入れてもらえるかどうかを考えつつ、地域のつながりを取り戻す活動を行なっている先進地の活動も参考にします。				
	<b>協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)</b>				
	市民協働課、自治会町内会、ボランティア団体からの情報収集協力体制をさらに強化し、情報を共有し、発信していきます。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		3年7月～ 6年3月	(1) 地域の取り組みを整理し、効果的な方法をまとめ地域性と関係機関についてさらに深掘りしていきます。 (2) 地域新聞への情報提供とともに自治会町内会との連携をしていきます。		
	年 月 ～ 年 月				
<b>取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見</b>					
・コロナ禍を受け、リモートボランティア講座のような新しい支援のありかたが進んだ一年であったと思います。従来の集合型の活動の利点と、リモート型の活動の利点を、それぞれ生かしながら、関係機関との連携作りを期待します。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度			
担当者	職名	係長	氏名	長谷川弘典
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援	
	取り組み	①	子育て支援の促進	
現状と課題	<p>現代の子どもたちを取り巻く環境は、核家族化や共稼ぎ世帯の増加などを理由に変化しております。そして児童虐待を始め、孤食や貧困問題など様々な子育て、子どもたちに対する課題が大きく取り上げられております。その中で、地域で子どもたちを育むという意識も希薄であるように感じられ、多くの人が参加できる子育て支援に関する行事や、親子でふれあう機会が減少しており、子どもの置かれている状況を地域が把握できなくなっています。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<p>(1) 親子交流の場の整備 ・実施内容：市内における「親子交流の場」に関するアンケート調査を、子育てに携わる関係各課、保育所、ボランティア等に対して実施 ・実施期間：令和3年3月までに実施 ・達成目標：市内における「親子交流の場」に関する実態の把握</p> <p>(2) 家族が地域とふれあう機会づくり ・実施内容：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」に関するアンケート調査を、子育てに携わる関係各課、保育所、ボランティア等に対して実施 ・実施期間：令和3年3月までに実施 ・達成目標：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」に関する実態の把握</p> <p>(3) 地域住民ネットワークの整備 ・実施内容：市内における「地域住民ネットワークの整備」に関するアンケート調査を、子育てに携わる関係各課、保育所、ボランティア等に対して実施 ・実施期間：令和3年3月までに実施 ・達成目標：市内における「地域住民ネットワークの整備」に関する実態の把握</p>			
令和2年度 の実施状況	<p>今年度は「子育て支援」について、現状の取り組みを各関係団体に向けてアンケート調査を行いました。 送付先：市内小学校、幼稚園、保育所（園）、地域子育て支援センター 子育てに関わるボランティア団体等 送付：令和2年11月30日 回収：令和2年12月18日 アンケート内容：(1) 親子交流の場の整備 (2) 家族が地域とふれあう機会 (3) 地域住民のネットワークの整備 以上の項目について行っている行事や事業等を可能な範囲で記入。</p> <p>※コロナウイルス感染予防のため今年度は実施できないが、前年度に実施した事業や来年度以降に実施する予定も含めて記入の依頼を行いました。</p>			

	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	7月～3月 4	<p>(1) 親子交流の場の整備 就学前の保育園、保育所等や、小学校で様々事業を展開し、親子のふれあう機会づくりを行っていました。また、ボランティア団体に関しては本を通したふれあう機会づくりを実施していました。</p> <p>(2) 家族が地域とふれあう機会 保育所、小学校は運動会や夏祭り等の行事を開催するときに家族との交流も考慮して実施していました。</p> <p>(3) 地域住民ネットワークの整備 地域の民生委員が多くの保育所等と連携をとり、見守り等を実施していました。</p> <p>保育所、小学校については、行事を通した親子交流、家族が地域とふれあう機会づくりを実施していました。また地域の民生委員との連携もとりながら見守り等を実施していました。 ボランティア団体については、設立の目的に合わせた子育てに関する事業等を実施していました。</p>
進行管理	課題		
	親子交流・家族と地域とのふれあいについては、ほとんどの保育園・小学校で事業をとおして実施されていましたが、地域住民のネットワークについては、いくつかの保育所等が民生委員の見守り事業を行っていましたが、実施していると回答した保育所等は少ない状況でした。また自治会等による広く地域住民が参加できる事業等についても情報を得る必要があると感じました。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	保育所・小学校等だけではなく、自治会等で実施している事業等を把握し、取手社協としてどのようにかかわっていくか、また、どのようにすれば取手社協が住民ニーズに答えられるか調査検討を進めて参ります。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	各行動目標で掲げられているイベント等の交流活動について、子育て支援につながるようなものであれば協働連携して参ります。		
今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
	令和3年7月～令和4年3月	地域の自治会等で実施している事業等を調査し、具体的な事業内容等を把握し、社協として取手市内の子育て支援の向上につながる事柄を検討して参ります。	
	年 月 ～ 年 月		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には、子供の遊び場が少ないですね。ボール遊びができる広場を確保してください。</li> <li>・調査により、地域で不足しているものや必要とする支援が見えてきたと思います。得られた情報をもとに、コロナ禍で優先すべき支援も考慮し、子育て支援の促進に期待します。</li> </ul>			

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和2年度		
担当者	職名	係長	氏名 宮崎江美子
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援
	取り組み	②	安心できる居場所をつくります
現状と課題	<p>・子どもの取り巻く環境の中で、核家族化、共稼ぎ家庭が増え、親子のふれあいが少なくなっています。そのため、子育て世代が安心して参加できるイベント等や、地域の中で世代間交流の機会を継続的に参加できるよう、参加団体や対象者の拡大及び、PR方法について検討していく必要があります。</p> <p>・子ども達が安心して集まれる場所が不足しているため、関係機関と話し合い居場所づくりやパトロールの強化が必要となっています。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたのかなど)	<p>(1) 安心できる遊び場、居場所づくりをつくります。          ・実施内容：子育て世代が必要としている遊び場、居場所、イベント等の状況調査（行政、市社協、市民レベルにおいて）          ・実施期間：令和3年3月まで          ・達成目標：取手市役所各担当課、自治会等への聞き取り及び情報の集約、PR方法の確認</p> <p>(2) 遊び方を学べる機会をつくります。          ・実施内容：市内においてシニア世代と地域の子ども達との交流機会の現状調査（市社協レベルにおいて）          ・実施期間：令和3年3月まで          ・達成目標：市社協、関係団体等への聞き取り及び情報の集約、PR方法の確認</p> <p>(3) 遊び場見守り体制を整備します。          ・実施内容：地域の見守り体制の現状調査の継続（行政、関係団体レベルにおいて）          ・実施期間：令和3年3月まで          ・達成目標：取手市役所担当課、市社協担当、ボランティア団体等への聞き取り及び情報の集約</p>		
令和2年度 の実施状況	<p>今年度は「安心できる居場所を作り」について、現状の取り組みを各関係団体に向けてアンケート調査を行いました。</p> <p>送付先：市内小学校、幼稚園、保育所（園）、地域子育て支援センター          子育てに関わるボランティア団体等          送付：令和2年11月30日          回収：令和2年12月18日          アンケート内容：（1）安心できる遊び場、居場所づくり          （2）遊び方を学べる機会          （3）遊び場の見守り体制          以上の項目について行っている行事や事業等を可能な範囲で記入。</p> <p>※コロナウイルス感染予防のため今年度は実施できないが、前年度に実施した事業や来年度以降に実施する予定も含めて記入の依頼を行いました。</p>		

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	7月～ 3月	4	<p>(1)～(3)アンケート調査の実施 取手市内において取り組んでいるイベント等を調査し、内容を精査しています。学校、幼稚園等および、ボランティア団体がコロナ禍の中でイベントの中止となる事も多く、常に情報を確認しながら交流の機会を設けている状況です。</p> <p>(3)見守り体制については、自治体に地域の見守り体制の情報収集を行っていきたいと考えています。</p>
	課題			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関によるイベントの開催は予定されています。子育て世代へ継続的に参加できるようなイベント情報がどのように配信されているのか等、広報活動について現状の確認をする。</li> <li>子ども達の活動の場において、見守り体制の充実を図る。</li> </ul>			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、アンケートの回答を参考にしながら子育て世代が安心して参加できるイベントや、地域の中で世代間交流の機会を継続的に参加できるよう情報の配信および、広報活動の把握に努めていきます。</li> </ul>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>(1) (2)については、行政、取手社協、ボランティア団体との連携や情報の共有 行動目標2-②、行動目標3-③との協働・連携</p> <p>(3)については、自治体、民生委員等の連携 行動目標3-①との協働・連携</p>			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		令和3 年7月 ～ 令和4 年3月	<p>(1) (2) 共通して、子育て世代や子ども達が継続的にイベント等に参加できるような広報活動の把握を行います。</p> <p>(3) 地域の中で子ども達が安心して活動できる見守り体制について、自治体、民生委員、ボランティア団体等の取り組みを把握に努めます。</p>	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化が進む中、世代間の交流は必要です。老人と若い世代の交流も検討ください。</li> <li>調査により得られた情報は、いかに活用するかが大事だと思います。安心できる居場所づくりにつながる、情報の配信・活用に期待します。</li> </ul>				